

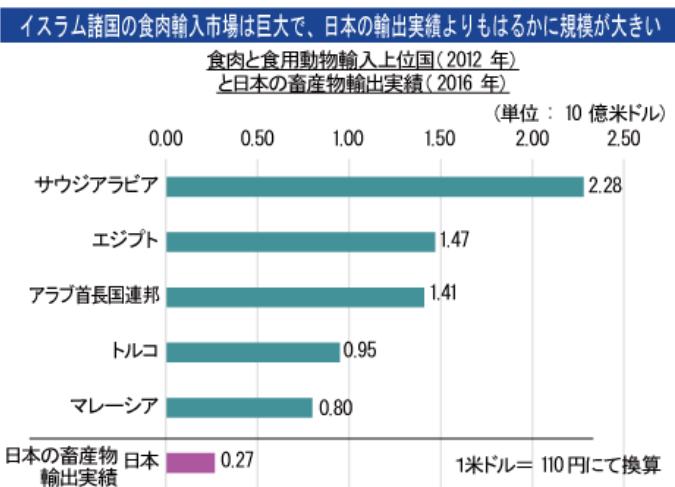
ハラールという戦略上の選択肢 حلال

データで読み解く訪日ムスリム客の動向

第19回

訪日ムスリム（イスラム教徒）客の間で今、人気が急上昇しているのが牛肉です。日本の牛肉は海外でもブランドとして認知されていますが、流通量が少ないため、めったに食べることができません。そのため訪日を機に食べたいという需要が増えていることを受け、国産牛肉のハラール化が動き始めました。今回は訪日ムスリム客がこれまで「食べたくても食べられなかつた代表格」のハラールビーフについて考察します。

ムスリムは大のお肉好き



上のチャートは、食肉と食用動物の輸入上位国と日本の畜産物の輸出実績を示しています。イスラム諸国のは多くは食肉と食用動物を大量に輸入しており、その規模は日本の畜産物全体の輸出実績とは比較にならないほど大きいことが確認できます。つまり、日本産の牛肉や鶏肉はイスラム諸国にはほとんど輸出されておらず、それが訪日を機に食べたいという動機になっていっているのではないかと考えられます。

ハラール食材の中でも、特に食肉類への認証は厳しいとされています。畜産環境、食肉解体方法、使用道具、保管方法、流通と、まさに「Farm to Table」の過程でさまざまな要件が設定されています。食肉解体には免許保持者が必要とされている場合があり、しかし日本にはその免許保持者が少ないとあって、国産ハラールビーフの生産は最近まで極めて限られた

のです。

一昔前まで日本国内でハラールビーフを入手するには、ハラールショップか在住外国人向けスーパー・マーケットで輸入品を買い求めるのが一般的でした。しかし今では、神戸物産（兵庫県稻美町）が運営する業界大手の「業務スーパー」が全国28店舗で展開しており、ハラールビーフは在住ムスリムだけでなく、一般的の消費者にも身近になりつつあります。同スーパーはもともと数多くの輸入ハラール食品を取り扱っていましたが、昨年開催されたハラールエキスポジャパン2016での反響を受け、ハラールビーフの取り扱いを始めたのです。

ハラール化される国産牛肉

日本の国産牛肉のブランド数は154あり（※1）、そのうち飛騨牛（岐阜県）、阿波牛（徳島県）、尾崎牛（宮崎県）、門崎丑（かんざきうし、岩手県）といったブランドがハラール認証を取得していることが確認されています（※2）。中でも注目度が高いのが神戸牛です。神戸牛はノンハラールでも絶大なブランド力を誇り、本連載の第4回でご紹介したアンケートでも日本でやりたいことの上位に「ハラール和牛、神戸牛を食べたい」がランクインしたほどの人気です。

神戸牛はそもそも生産量が少ないので有名ですが、ハラールとなると、さらに流通量が少なくなります。こうした希少価値の高いハラール神戸ビーフを都内で唯一提供しているのが、くすもと（港区西麻布）です。フランス料理出身のオーナーシェフが振る舞うコース料理はムスリム客に絶賛されており、今ではキャンセル待ちが続く超人気店になっています。

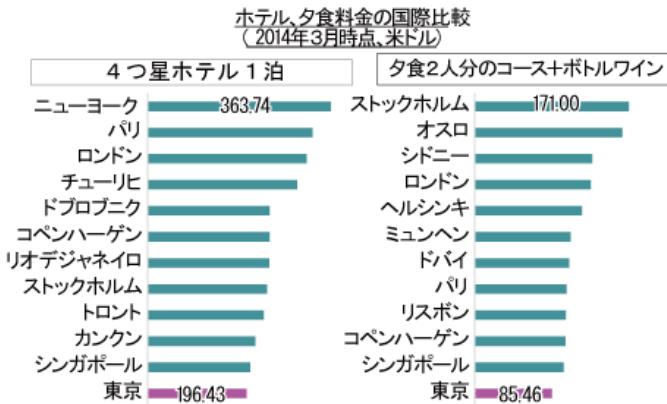


くすもとでは、ハラール神戸ビーフを都内で唯一提供している。

ラーメン、ギョーザ、たこ焼きなど庶民に身近な食事から始まった日本のハラールは、このように今では神戸牛といった高級食材にまで広がりを見せているのです。

ブランド食材で消費額アップを

日本での滞在費用は海外の主要都市よりも安価で、高価格帯へ転換させる余地は大きい



日経新聞(2015/4/6)、トリップアドバイザー2014年3月調査から作成

上のチャートは、東京と世界各都市のホテル宿泊費、夕食費の比較です。ご覧のように東京は海外主要都市よりも滞在費が安いことが確認できます。これは日本で過去20年以上にわたってデフレ傾向が続いた間に、海外主要都市が割高になった結果です。

日本の今のインバウンド(訪日外国人客)は約70%が東アジア諸国からで、その多くは中間所得層であると推定されます。1人当たりの旅行支出額は16万円程度であり、今後は滞在日数の長期化とそれに伴う消費額の増加が期待されます。消費額を増加させるには、単価アップ、消費機会の拡大、リピート率の向上が考えられ、ブランド食材はそれに向けた有効な手段となるでしょう。

ハラール化されていないブランド食材はまだまだあります。「今だけ、ここだけ、あなただけ」の視点で、特に地方の特産物を今一度見直してみてはいかがでしょうか。

※1 「国産牛肉でイキイキ生活」日本食肉消費総合センター

※2 ハラールメディアジャパン 2017年7月末日時点調べ

<筆者紹介>

横山真也

Yokoyama & Company (S) Pte Ltd マネジングディレクター

ハラールメディアジャパン株式会社 共同創業者
日本人初のSMCCI Entrepreneur Honoureeを2016年に受賞。

ハラール関連事業としては2014年元日に「世界初の英語発信による日本ハラール専門ポータルサイト」HALAL MEDIA JAPANを開設、14年にはハラール・ベジタリアンレストラン検索サイト・アプリ「HALAL GOURMET JAPAN」をサービスイン。日本最大のハラールトレードショーであるJAPAN HALAL EXPOを14年と15年に開催、16年には新たにHALAL EXPO JAPANとして日本初のムスリムファッションショーTOKYO MODEST FASHION SHOWと併せて東京で開催した。17年11月には東京・浅草で4度目となる同イベントを開催する。



商談、会議、出張に。
NNA ASIA
アジア経済ニュース
**アジアの経済を
携帯する**
世界中で
7,000社が活用!!

NNA ASIA、有料サービスNNA POWER ASIAはPCサイトの情報量をそのままにスマートサイトをリニューアルいたしました。

お手持ちのスマートフォンで下記URLにアクセスいただきか、QRコードを読み込んでください。

<https://www.nna.jp/>



Kyodo News Group

